

栗東市市民参画と協働によるまちづくり 推進条例行動計画における各課の取組み実績について 【令和3年度】

基本目標	推進内容
<h2>環境づくり</h2> <p>多様な主体とのネットワークが構築され、誰もがまちづくりに参加できる環境が整っている</p>	<ul style="list-style-type: none">① 中間支援組織の育成・支援及び組織体制の充実② 市民活動支援と市民提案制度の活用促進③ 大学、企業等の多様な主体との連携・ネットワークの活用
<h2>担い手づくり</h2> <p>自分が住む地域を良くしたいと考え、地域ニーズや課題解決に対応し、取り組むことができる市民が増えている</p>	<ul style="list-style-type: none">① まちづくりに主体的に関わる人づくり② まちづくり活動の担い手づくり③ 協働によるまちづくりに取り組む職員の育成
<h2>情報の発信・共有</h2> <p>行政情報やまちづくりに必要な情報をみんなで共有することで、協力・連携し、市民参画や協働に活かされている</p>	<ul style="list-style-type: none">① 多様な機会やメディアを活用した分かりやすい情報の発信② 市民（市民活動団体）が交流できる場や機会の充実③ 市民（市民活動団体）が情報発信・共有できる機会の充実
<h2>市政への参画</h2> <p>市民が政策の形成や実施、評価などに参画し、市民ニーズに対応したまちづくりができている</p>	<ul style="list-style-type: none">① 広聴制度の充実② 市政への市民参画機会の推進

1 環境づくり

基本目標

多様な主体とのネットワークが構築され、
誰もがまちづくりに参加できる環境が整っている。

推進内容

中間支援組織の育成・支援及び組織体制の充実

【今年度の取組内容】（自治振興課）

- 昨年度実施したニーズ調査に基づく、新たな市民活動支援施策の検討
- ボランティア市民活動センターは市民活動団体、コミュニティセンターは地域コミュニティ団体の中間支援組織として、総合的な支援体制の構築に向け、意見交換の実施

【今年度の取組実績】

- 新たな市民活動支援施策の検討を行なった。（詳細別紙）
- ボランティア市民活動センター定期的に意見交換を実施。コミセン副センター長との情報交換会を実施した。

市民活動支援と市民提案制度の活用促進

【今年度の取組内容】（自治振興課）

- 未来へつなぐ市民活動応援事業の周知、定着に向けた取り組みの実施

【今年度の取組実績】

- 説明会を実施し、元気創造まちづくり事業や協働事業提案制度と比較しながら、未来へつなぐ市民活動応援事業の周知を行なった。

大学、企業等の多様な主体との連携・ネットワークの活用

【今年度の取組内容】

- 「りっとうのお仕事図鑑（第3版）」の配布（商工観光労政課）
- (株)セブン-イレブン・ジャパン、日本郵便(株)と包括連携協定を締結（元気創造政策課）
- 大学連携による龍谷大学事業への参加やインターンシップの受け入れ（総務課）

【今年度の取組実績】

- 好評につき掲載事業者は47社から71社に増加。採用データや実績を充実させ、若手職員インタビューの特集記事を載せるなど、より採用に結びつくよう改良している。
- 6月に協定を締結し、セブンイレブンや郵便局に市の情報コーナーを設置するとともに、認知症サポーター養成講座を受けてもらい高齢者の見守りについて取り組みを進めている。セブンイレブンでは高齢者のタンパク質摂取を促すPOP掲示など、連携による新たな取り組みを始めている。
- 龍谷大学の「まちづくり論」に職員が参画。学生や大学ができる栗東市の課題につながる取り組みを学生に提案してもらい、次年度実現に向けて検討していくこととなった。

2 担い手づくり

基本目標

自分が住む地域を良くしたいと考え、地域ニーズや課題解決に対応し、取り組むことができる市民が増えている。

推進内容

まちづくりに主体的に関わる人づくり

【今年度の取組内容】

- 栗東100歳大学では、ボランティア団体等にて体験する機会等を追加（長寿福祉課）
- 花と緑のガーデン事業の実施（都市計画課）
- 小野・出庭それぞれの自主的なまちづくり活動の支援（都市計画課）
- ふるさと納税によるクラウドファンディングの実施（元気創造政策課）

【今年度の取組実績】

- 栗東100歳大学は19名の参加で28回実施。コロナ禍により既存団体の活動が少なく体験の機会は増やすことができなかった。
- 2団体で一つは新たなガーデンづくり、もう一つは既存ガーデンの改良を行なった。
- まち歩きワークショップや住民アンケート、現地視察などまちづくり計画策定に向けた取り組みの支援を行なった。
- くりちゃんのレインコート及び長靴作成、市民体育館の改修工事の一部でふるさと納税によるクラウドファンディングを実施。2件とも目標額を達成できた。

まちづくり活動の担い手づくり

【今年度の取組内容】

- 市民参画と協働による市民学習会の開催（自治振興課）

【今年度の取組実績】

- 市民学習会「継続的な寄附へのつなげ方」をオンラインにて開催した。（詳細別紙）

協働によるまちづくりに取り組む職員の育成

【今年度の取組内容】

- 市職員の理解促進とスキルアップを図る職員研修の実施（自治振興課・総務課）
- 市職員から選拔し、市職員のまちづくり意識を向上させる指導者の育成（総務課）

【今年度の取組実績】

- 協働担当者を対象に「協働組織体の運営で起こりがちな問題に対して事務局としてできることは？」をテーマに実施。また、階層別の研修として「協働の意義と自治体職員の役割を考える」をテーマにオンデマンド型研修を実施した。（詳細別紙）
- 龍谷大学と連携し、職員4名がまちづくり人材養成プログラムを受講。大学の授業を受講、授業での担当と異なる市の課題の紹介、ファシリテーターの担当などを行なった。

3 情報の発信・共有

基本目標

行政情報やまちづくりに必要な情報をみんなで共有することで、協力・連携し、市民参画や協働に活かされている。

推進内容

多様な機会やメディアを活用した分かりやすい情報の発信

【今年度の取組内容】

- まちづくり通信を活用した事例紹介（自治振興課）
- 市制施行20周年記念と合わせた魅力の発信（秘書広報課）
- 「りっとうミツケーター養成講座」または「Facebook講座」の実施（秘書広報課）

【今年度の取組実績】

- まちづくり通信を2回発行し、市Facebookに2回投稿した。
- 栗東フォトグランプリの実施。68点の応募があり、カレンダーを作成した。
- 新規に8人の「りっとうミツケーター」を養成。ボストンホテルでシェフや料理の取材の仕方を学び、記事を投稿する講座を実施。2月予定の講座はコロナのため中止となった。

市民（市民活動団体）が交流できる場や機会の充実

【今年度の取組内容】（自治振興課）

- 元気創造まちづくり事業成果報告会において、未来へつなぐ市民活動応援事業の活動報告も併せて実施
- ボランティア講座・市民活動サポート講座における意見交換の機会創出

【今年度の取組実績】

- 成果報告会をオンラインにて開催し、9団体が報告を行なった。
- プレゼンのサポート講座および成果報告会のサポート講座ともにコロナの状況によりオンラインでの実施となった。十分な交流や意見交換の実施は難しかった。

市民（市民活動団体）が情報発信・共有できる機会の充実

【今年度の取組内容】（自治振興課）

- 市民活動情報コーナーなどでの、市民活動団体等の活動内容の情報発信・共有
- ボランティア市民活動センターの団体情報を自治振興課でも問い合わせ可能にする
- 各コミュニティセンターの情報発信を市のホームページでもできる仕組みの検討

【今年度の取組実績】

- 市民活動情報コーナーや各コミセンにおいて、市民活動団体の情報発信を支援した。
- ボランティア市民活動センターとの情報共有の検討を行なった。
- 各コミセン情報のページを市のホームページ内に作成し、情報発信に取り組んだ。

4 市政への参画

基本目標

市民が政策の形成や実施、評価などに参画し、
市民ニーズに対応したまちづくりができています。

推進内容

広聴制度の充実

【今年度の取組内容】

- 「市長への手紙」、「市長のこんにちはトーク」、「まちづくり出前トーク」、「市長と気軽にまちづくり座談会」の実施（秘書広報課）

【今年度の取組実績】

- 「市長への手紙」約 200 件、「市長のこんにちはトーク」1 件、「まちづくり出前トーク」14 件、「市長と気軽にまちづくり座談会」4 学区にて実施した。

市政への市民参画機会の推進

【今年度の取組内容】

- 「栗東市文化財保存活用地域計画」の作成では、歩きながら地域の文化財について、参加者の意見を聞くワークショップを昨年度は旧四か村地域で開催。今年度は屋内で 1 回開催予定（スポーツ・文化振興課）
- 「栗東市農業振興基本計画」の策定では、市内 4 地域の説明会において、農業従事者などからワークショップやアンケートによる意見収集を実施予定（農林課）
- 「栗東市食品ロス削減推進計画」の策定では、ごみ減量リサイクル推進会議等にて、市民や各種団体から意見収集を予定（環境政策課）
- その他、第 11 次栗東市交通安全、栗東市人権擁護計画、栗東市図書館基本的運営方針（第 2 次）を策定予定。審議会やパブリックコメントの実施を予定

【今年度の取組実績】

- 開催予定のワークショップはコロナにより中止。昨年度のワークショップの意見は歩きながらであったことから、看板や道中の意見についても聞くことができた。
- コロナにより人数は絞った形でワークショップを実施。農業組合長や認定農業者、農業後継者クラブなどから意見収集を行ない計画に反映した。
- 地域別の可燃ごみ組成調査や策定委員会での意見を基に計画を策定し、食品ロス削減の啓発のため 2 日間フードドライブを実施した。